

【高等学校用】

令和5年度学校評価 計画

学校名		佐賀県立小城高等学校	
1 前年度 評価結果の概要		・新型コロナウイルスに翻弄された時期を経験し、新しい学校のあり方が求められている。そのような中、ICT活用教育は一定の充実が図ることができた。また、学校行事の精選もこれを機に図ることができた。 ・教育相談や特別支援教育においては充実した体制がとれており、スクールカウンセラーや外部機関との連携を図りながら適切な対応がとれている。 ・多種多様に渡る業務の遂行や諸問題への対処のため、校務分掌をグループ化しチームで対応する体制に移行した。併せて、働き方改革が新しい教育環境の創成や教育イノベーションにつながるよう改善と工夫に務める。	
2 学校教育目標		・本校の校訓である「創意 (Originality) 」・「挑戦 (Great Challenge) 」・「誠実(Integrity)」の実践を推奨し、豊かな人間性を育む。 ・「文武一途」を奨励し、総合力としての「生き抜く力」を育成する。社会の変化とともに、次代を担う生徒に求められる資質や能力も変わる中で、新しい教育の指針に盛り込まれた改革の流れを敏感に捉え、進んで「教育イノベーション」に取り組んでいく。	
3 本年度の重点目標		・「確かな学力の育成」(知育)：資質・能力の3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間力」の育成、基礎的・基本的な知識・技能(基礎学力)の定着、個の進路に応じた受験学力の育成 ・「豊かな人間性の育成」(徳育)：情報モラル教育及び「いじめ」の防止対策の推進、自己肯定感や自己有用感を高める体験活動の推奨、共生社会を担う人材育成、ボランティア活動の推進 ・「健康・体力の育成」(体育)：健康の自己管理能力の育成、部活動の活性化	
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
		重点取組	具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○基礎学力の定着及び進路実現を見据えた学習指導の実施	○各教科の代表者が研究授業を行い、授業改善について研究協議する。 ○教科担当者会議を2回以上行い、教科間の連携や分析を行う。	・AL的な視点(主体的な学び、対話的な学び、深い学び)に立った指導法を研究し、授業改善に取り組む。 ・模擬試験や定期考査の分析を行い、各教科の課題量や質、学習時間の配分について教科担当者と担任で綿密な情報交換と連携を行う。
	○キャリア教育の充実及び生徒の進路志望の実現 ○多様な入試の形態に対応した進路指導の充実	○個人面談を年3回以上行い、自らの生き方を考えさせ、興味・関心、能力、適性に基づいて主体的に進路を決定できる能力の育成を図る。 ○進路講演会等を実施し細心の入試情報を得る。 ○自分の希望する進路を実現した生徒の割合80%以上になるような進路指導を実践する。	・教職員はキャリア・カウンセリング・マインドとスキルの共有を図り、個人面談等を行う。 ・総合的な探究の時間、キャリア教育講演会等の行事を通して、生徒のキャリアデザイン力の育成を図る。 ・特に学校推薦型選抜、総合型選抜や国公立大学の入試動向等についての情報研修会、研究会や講座に参加した職員の割合が30%以上になるようにする。 ・オープンキャンパス、校外体験学習や研修、コンペやワークショップ等へ参加した生徒の割合が50%以上になるよう奨励する。
●心の教育	○生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の実践	○生徒、職員が人権感覚を身に着的ための研修機会を年2回以上設ける。 ○共生社会とは何かについて、全ての生徒が考え、行動することができるようにする。 ○共生社会について、深く学ぶ生徒集団を作り、リーダーを育てる。	・人権学習・進路保障HR活動を全クラスで実施する。 ・人権・同和教育講演会を実施する。 ・共生社会について、生徒向けの授業を全クラスで実施する。 ・九州大学と連携し、九州大学の講義に参加し、共生社会についての知識を深め、リーダー的役割を果たす生徒を育てる。 ・九州大学ピアアポーターと生徒間で交流し、共生社会についての学びを深め、活動を通して、その理念を全校生徒へ普及させる。
	○共生社会を担う人材育成に関する教育活動の実践		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめアンケートを実施し、組織的な対応を行う。 ○情報モラル教育に関する講演会を実施し、いじめ防止に努める。	・教育相談部、生徒支援部、学年で情報を共有し、いじめアンケート等について、追跡調査、指導を行う。 ・講演会だけでなく、全校集会、学年集会において、いじめや差別、偏見につながるような行為は許されないことを周知し、道徳心や倫理観の育成に努める。
	◎★自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎郷土小城や佐賀について学ぶ活動や講演会を実施し、アンケート等で郷土に愛着を持っている生徒80%以上にする。 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合70%、教職員の割合90%以上にする。	・SDGs講演会や「さがを誇りに思う講演会」を実施し、地元小城や佐賀の魅力について知見を深め、持続可能なよりよい社会を形成しようとする意識や意欲を醸成する。 ・オンラインワン活動において社会貢献活動やボランティア活動に参加した生徒が35%以上になるように地域の行事や校外のイベントの情報を生徒に周知し、積極的な参加を促す。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○健康寿命を延ばす食生活を意識し免疫力を高める食事の摂取の推進	●「健康に良い食事をしている」と考える生徒の割合95%以上にする(高2対象) ○毎朝、朝食を自宅ですべて登校する生徒の割合95%以上にする(高1・2対象)	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりの発行を通して、食や健康管理に関する意識を高める。 ・関係教科との連携を密にするとともに情報共有を行い支援にいかす。 ・保護者への個別の連絡を徹底する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○各種休暇を取得しやすい雰囲気を作り、平均年休取得日数12日以上を奨励する。	・定時退勤日、学校閉庁日、部活動休養日を設定する。 ・衛生委員会などで情報を共有し、気になる職員には個別に対応する。 ・早めの個人の業務計画立案を習慣化し、年休が取得しやすい環境作りを行う。 ・チームや組織による用務遂行を定着させ、用務の効率化と勤務の平準化を目指す。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
		重点取組	具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の充実 ○チーム支援体制の強化 ○早期発見、早期対応の徹底 ○個に応じた教育の充実	○合理的配慮について必要な生徒及び保護者の理解を100%にする。 ○2次障害を発症する生徒をなくす。 ○支援が必要な生徒は、100%チームで対応する。	・生徒支援グループ会議を、各学年毎に毎月開催し、学年及び生徒支援グループ間の情報共有を密にする。 ・合理的配慮については、入学式やPTA総会、その他保護者面談等を利用して情報提供を行うと共に、適切な配慮の実施及び定期的な評価改善を行う。 ・生徒及び保護者との面談、SCの活用のタイミングを逃さず、早期発見、早期対応に繋げる。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり			
5 総合評価・ 次年度への展望		・「進化！小城高校2022始動」を掲げ、来年度からの校務分掌の見直しなどの改革に取り組んだ。秋には地域の方々に広く参加者を募集し、音楽会を初めて開催し参加者等から高評価を得ることができたが、教育活動を校内だけで完結しない今後の高校のあり方を体現できた取組であった。 ・生徒の安全安心な学校生活の確保のために、教育相談を充実させ、SCやSSW、外部機関等と連携を取りながら、適切な取組を実践することができた。次年度は、校務分掌の再編することで、更に全職員が丸となって連携を強化し多様化する生徒の指導・支援にきめ細やかな対応を推進していく。	